

# 第1回市民体育館等 あり方検討委員会 資料

- |               |   |    |
|---------------|---|----|
| 1 経緯と基本的考え方   | … | P1 |
| 2 市民体育館の現状と課題 | … | P2 |
| 3 市域全体のバランス   | … | P4 |
| 4 利用者の将来予測    | … | P6 |
| 5 再整備検討の方向性   | … | P8 |

生涯学習・スポーツ課

## 1 経緯と基本的考え方

市民体育館は、老朽化による大規模改修が大きな課題となっていたことに併せて、平成 22 年に実施した耐震診断の結果、耐震補強を要する施設であることが判明したため、平成 24 年には市有建物耐震化計画の中で耐震化工事実施予定施設として位置づけ、耐震補強を含む大規模改修の準備を進めてきました。

その一方で、変動する社会情勢の中で、鳥取市も全国の多くの自治体と同じく“公共施設の更新問題”を抱えているため、『新しい公共施設経営』についての検討が進められており、平成 27 年 2 月に「鳥取市公共施設の経営基本方針(第 1 版)」がまとめられました。

公共施設経営の観点から、市民体育館の耐震化を実施する前に廃止・統合も含めた今後のあり方を検討するため、平成 26 年度において「市民体育館等の再整備に係る基礎調査」を実施したものです。

多くの市民が利用する公共施設として“市民の安心・安全”を確保するため、市民体育館の整備方針を早急にまとめ、所要の対応を講じることが急務となっています。

### 【鳥取市公共施設の経営基本方針(第 1 版)】

～市民体育館等再整備のあり方検討に係る箇所を抜粋～

#### 第 7 章 公共施設経営の原則と戦略

公共施設は、利用者負担以上に全市民によって支えられていることをふまえ、施設利用者のみならず市民全体で施設経営を考えていくことが重要です。

(戦略 1) 複合化・多機能化によって拠点性を高め、新しい価値を生みます。

(戦略 2) 施設の利用圏域や施設用途をふまえた施設経営を進めます。

(戦略 3) 市民・民間事業者・行政の共同の仕組みを構築します。

#### 第 8 章 施設分類別の“現状・課題”と“方向性”

**体育館** 大規模改修や建替えが必要となった場合は、市域全体としてのバランス等をもとに存廃について検討します。

#### 第 9 章 施設更新等の基本的考え方 (2 具体的な手法を考える視点)

利用ニーズが高く、建物性能が低いものは、更新を基本に検討します。

- ① 必要なサービスを提供するための“施設規模”を検討し、可能な限り現有施設で対応します。
- ② 多機能化及び複合化を検討し、可能な限りコンパクトな形態とします。
- ③ 予防保全及び維持管理コストの削減等を視野に入れた手法を選択します。

## 2 市民体育館の現状と課題

## (1) 市民体育館の概要

建築年度：昭和 48 年度

建築面積：4,976 m<sup>2</sup>

延床面積：6,874 m<sup>2</sup>

1 階：トレーニング室、会議室、研修室、役員室

2 階：トレーニングスペース（卓球、ランニング等）

競技場面積：2,186 m<sup>2</sup>

バスケットボール《2 面》、バレーボール《3 面》、卓球《約 40 台》

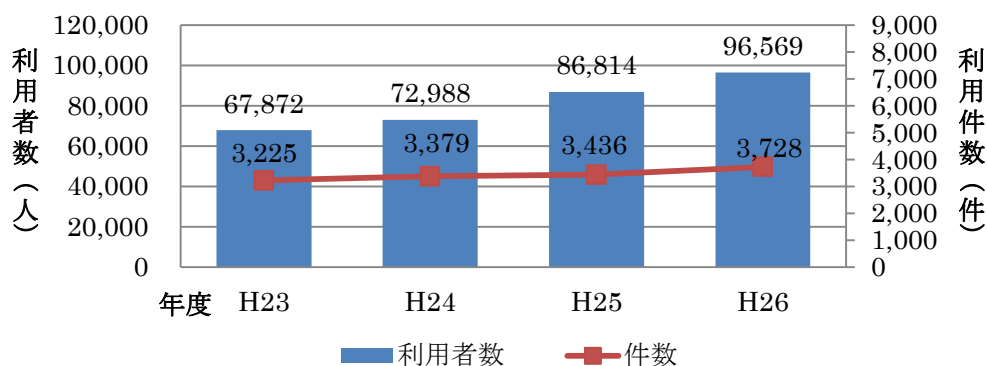
バドミントン《12 面》、フットサル《2 面》、テニス《3 面》

観客席：1,676 席



## (2) 市民体育館の公共的役割

◆ 日常的に市民がスポーツ活動に親しむ「スポーツ活動の拠点施設」



◆ 災害発生時における「拠点避難所」

《地区別人口》

・ 中学校区 = 南中校区 ⇒ 26,588 人（中学校区で市内最多）

・ 小学校区 = 美保地区 ⇒ 9,835 人（小学校区で市内最多）

《体育館あたりの人口》

・ 体育館一箇所当たりの避難想定人口も南中校区が市内最多：3,324 人

・ 市民体育館の最大収容人員：1,380 人

## (3) 市民体育館の課題



## ◆耐震化

耐震診断：平成 22 年

診断結果：IS 値 0.28

緊急度：高

対応の目安：改築又は耐震補強

※Is 値（Seismic Index of Structure：耐震指標）

■Is 値が 0.3 未満：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

■Is 値が 0.3 以上 0.6 未満：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

■Is 値が 0.6 以上：地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

## ◆老朽化対策

### 【雨漏り】

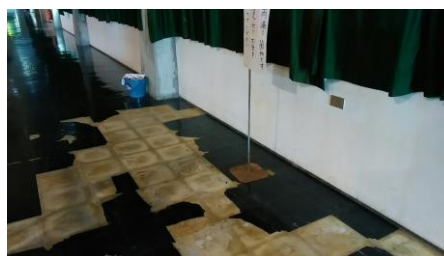
屋上屋根からの浸水や窓隙間からの雨水侵入等  
⇒躯体の劣化促進、観客席廊下が水浸しになる

### 【床耐久性の劣化】

研磨処理で床が薄くなり、これ以上削れない状態

### 【設備更新】

水道管漏水対応、受水槽地上化等



## ◆その他の設備等

### 【現行法規への対応】

施設改修時のスプリンクラー設置義務（現行消防法）

### 【バリアフリー化】

エレベーター設置等バリアフリー化の推進（バリアフリー法、鳥取県福祉のまちづくり条例）

### 【その他】

冷房設備新設（他施設の状況、利用者ニーズ）

照明のLED化（環境問題、経費節減）

## 3 市域全体のバランス

## (1) 市内の体育館設置状況

県立体育館2か所(県民体育館、産業体育館)

市立体育館49か所(市民体育館、地域総合体育館4か所、地区体育館 44か所)

	県民体育館	産業体育館	市民体育館	地域総合体育館	地区体育館
延床面積	12,000 m <sup>2</sup>	7,827 m <sup>2</sup>	6,874 m <sup>2</sup>	3,218 m <sup>2</sup>	500～1,000 m <sup>2</sup>
メインアリーナ	2,450 m <sup>2</sup> (バレー4面)	1,857 m <sup>2</sup> (バレー3面)	2,186 m <sup>2</sup> (バレー3面)	1,632 m <sup>2</sup> (バレー2面)	450～600 m <sup>2</sup> (バレー1面)
サブアリーナ	850 (バレー2面)	471 (バレー1面)			
観客席	3,478 席	1,940 席	1,676 席	410 席	

※地域総合体育館は、河原町総合体育館(地域総合体育館最大)のデータ

**【県民体育館】** 鳥取県域及び県域を越えた広域的レベルの競技会・大会(全国・西日本・中国大会等)、鳥取市域レベルの競技会・大会等の中心的施設

**【産業体育館】** 県民体育館と同様の広域的・全市域的レベルの競技会・大会等に対応することに加えて、プロレス等の興業や各種展示会等の産業的な活用も活発

**【市民体育館】** 広域的競技会・大会、市域や地域の身近な競技会・大会の場としての体育館、団体から個人まで誰もが日常活動ができる体育館という幅広い市民のスポーツ及びレクリエーションの受け皿としての役割が期待されている。

**【地域総合体育館】** 地区内住民を中心に周辺地区からのスポーツ・レクリエーションの日常利用を中心に、地区内の競技会・大会が定例的に開催されており、市域レベルや県域にまたがる広域的競技会・大会も年数回程度開催されている。

**【地区体育館】** 利用者のほとんどが当該体育館の所在する地区内住民であり、クラブや同好会などの団体で利用しているほか、学校の部活動利用もあり、日常スポーツ・レクリエーション活動の場として地区内居住者の重要な施設になっている。

## (2) 現有施設の利活用

◆市民体育館で開催されている大会の分散検討

《規模(参加者数)別大会開催状況》

※平成 25 年度実績

	県民体育館	産業体育館	市民体育館	地域総合体育館	合 計
1,000 人以上	37 回	2 回	10 回	0 回	49 回
500～1,000 人	53 回	25 回	24 回	0 回	102 回
100～500 人	105 回	99 回	64 回	13 回	281 回
100 人未満	2 回	69 回	4 回	13 回	88 回
合 計	197 回	195 回	102 回	26 回	520 回

大会等の利用設定枠(H25)県民体育館 210 枠、産業体育館 240 枠、市民体育館 114 枠

⇒稼働率:【県民体育館 93.8%】【産業体育館 81.3%】【市民体育館:89.5%】

※県民体育館・産業体育館、市民体育館とも休日(夜間を除く)の利用枠は、ほぼ飽和状態

◆市民体育館の日常利用者の分散検討

(「市民体育館等再整備に係る基礎調査業務報告書」 v-2 参照)

近隣の体育館で市民体育館の日常利用を受け入れた場合の不足件数			
時間帯	9:00—12:00	12:00—17:00	17:00—22:00
4 月	-21	充足	-31
5 月	-14	充足	-54
6 月	-24	充足	-54
7 月	充足	充足	-44
8 月	充足	充足	充足
9 月	-30	充足	-15
10 月	-37	充足	-52
11 月	-36	充足	-37

※近隣の体育館：倉田地区体育館、美保南体育館、日進小学校体育館、美保小学校体育館、倉田小学校体育館、美保南小学校体育館。(解体予定の勤労青少年ホーム体育館は除外)

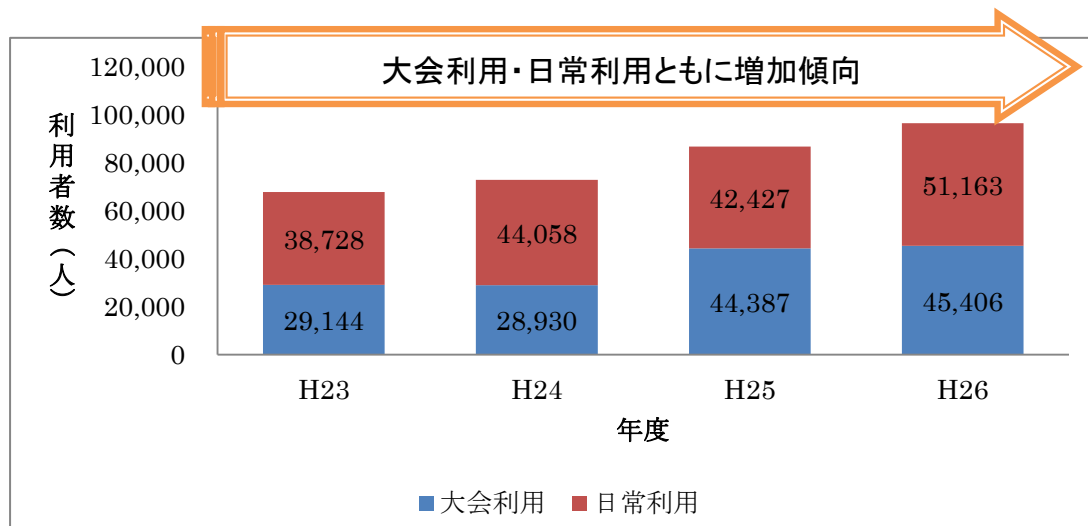
地区体育館においては夜間に利用が集中しており、全てを分散するのは困難

地区内の小学校体育館の空き枠を加えても日常利用件数の分散は困難

4 利用者の将来予測

## (1) 利用者の推移

利用形態は…、①地域や広域的な大会開催等の「大会利用」と  
②個人やサークル等の活動による「日常利用」に大別される。



### 【利用者が増加している要因】

#### ◆500人以上の大会増加

「大会利用」は土日祝日に集中  
休日の大会利用

H25年度:101日/114日(88.6%)

H26年度:94日/114日(82.5%)

※分母は、市民体育館開館日のうち大会利用可能な日数

大会規模	H23~25 年度平均	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度
①1,000人以上/件	4.3	1	2	10	10
②500~1,000人/件	14.7	13	7	24	26
③100~500人/件	68.3	67	74	64	60
④100人/件未満	3.0	4	1	4	15

#### ◆稼働率の向上

稼働率向上の要因

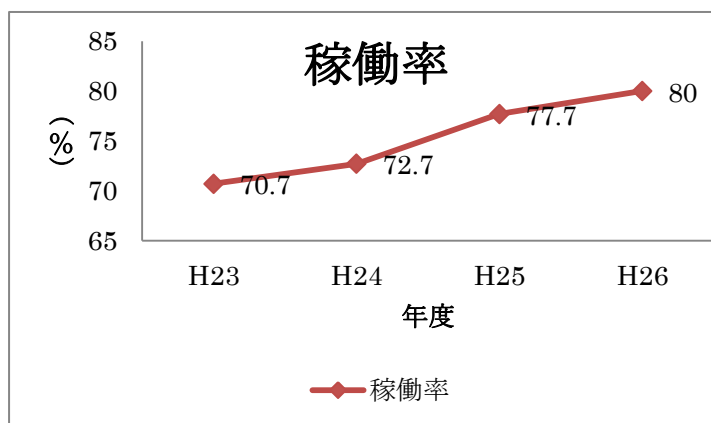
⇒平日(午前・午後)の空き時間に、主婦層や高齢者層の利用が増加した。

※1. 平日夜間は飽和状態

※2. 休日昼間は大会利用

※3. 空時間は…平日昼間  
休日夜間

午前 80%、午後 50%、夜間 95%以上 (※H26実績)



## (2) 利用者の将来予測

### ◆鳥取市の人口の将来予測

※「人口問題研究所資料(平成25年3月)」より



5年ごとの人口※	2015	2016～2019	人口増減(人)/年	2020	2025	2030	2035	2040
0～14	25,487	$= (23,232 - 25,487) / 5$	-451	23,232	21,022	19,124	17,796	16,687
15～64	115,335	$= (107,692 - 115,335) / 5$	-1528.6	107,692	101,574	95,870	89,896	82,078
65歳以上	51,397	$= (55,473 - 51,397) / 5$	815.2	55,473	57,110	57,436	56,932	57,368
合計	192,219			186,397	179,706	172,430	164,624	156,133

- ▼基準年の利用者数は H23 年度～H25 年度の平均とする
- ▼大会開催の規模や開催頻度は人口変動に影響を受けない
- ▼日常利用は基準年の利用者人口変化率を乗じる

という想定だと…

#### ◆市民体育館の利用者数予測

※「市民体育館等再整備に係る基礎調査報告書」より

市民体育館	基準年 H26(2014年)	開始予定年度 H28(2016年)	20年後 H47(2035年)	60年後 H87(2077年)
日常利用	41,140	40,642	34,872	33,059
大会利用	34,751	34,751	34,751	34,751
合計(人)	<b>75,891</b>	75,393	69,623	67,810

#### ◆利用者数予測の再考

【基準年の利用者数】 想定 75,891 人 ⇔ 平成 26 年度実績 96,569 人  
「毎年増加している利用者」 & 「年々向上している稼働率」

【大会利用者数】 想定通り、人口変動による影響は少ない  
新規大会や他の体育館で困難なフットサル大会等が増加傾向

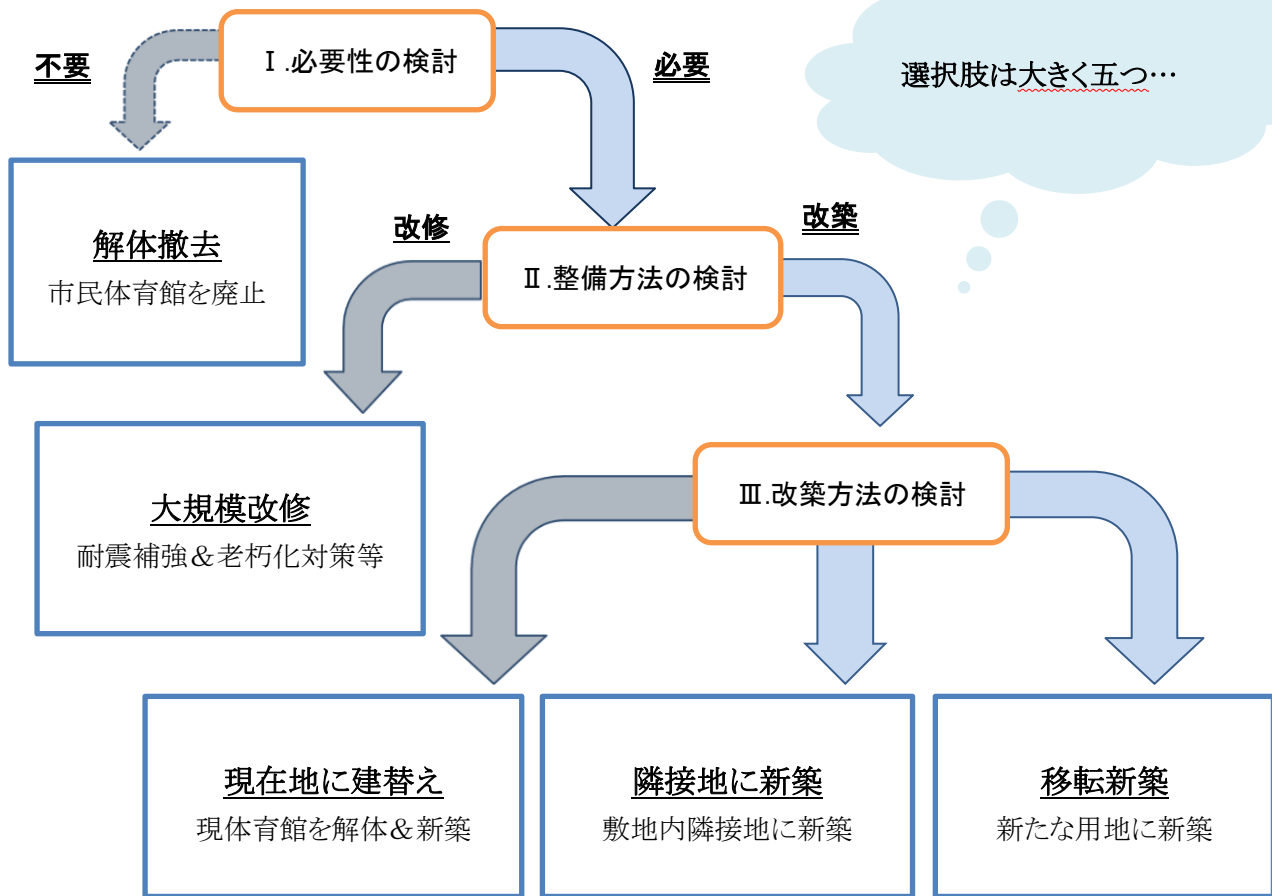
【日常利用者数】 夜間の利用は利用調整（抽選）⇒飽和状態  
平日午前&午後 ⇒主婦層及び高齢者層の利用が増加傾向  
人口は減少傾向にあるが、高齢者人口は増加

◎利用者数はしばらく増加が続く  
◎将来的に大きな減少傾向はない

## 5 再整備検討の方向性



## (1) 市民体育館再整備の選択肢



【耐用年数】大規模改修の場合は、20年後に改築が必要になると想定される。  
 (『長寿命化改修の基本的事項』(文部科学省)による)

【用地取得費】移転新築の場合は、新たに用地取得が必要となる。

【敷地の用途変更】敷地一体の現状は、第1種住居地域または第1種中高層住居専用地域  
 ⇒大規模改修の場合、単に設備改修的なものは特段の手続き不要  
 ⇒現在地に改築の場合、同じ用途で1.2倍の延床面積までは検討可能  
 ※建築基準法48条ただし書を適用(複合化、多機能化は不可)  
 ⇒複合化や多機能化によって体育館用途以外の用途を追加、または隣接地に  
 新築する場合は、原則的に敷地の用途変更を要する。

## (2) 敷地内の状況

市民プール



- ・ 建築年度 昭和 41 年度（旧南中学校プール）
- ・ 利用実績 一般利用 900 人、プール教室 400 人
- ・ 平成 26 年度から利用休止  
（内壁の劣化、プールサイド・階段等のクラック等）

#### 勤労青少年ホーム体育館

- ・ 建築年度 昭和 49 年度
- ・ 利用実績 年間 6,000 人
- ・ IS 値 0.3~0.4
- ・ 大路川広域河川改修事業（鳥取県）  
⇒ 平成 28 年 10 月までに撤去



#### 勤労青少年ホーム

- ・ 建築年度 昭和 47 年築
- ・ 構造など RC 造 2 階建 864 m<sup>2</sup>
- ・ IS 値 0.70

※倒壊又は崩壊する危険性が低いが、老朽化による大規模改修は要検討

